

宝物はすぐそばに

校内研通信

第1号

R7.5.7

発行者:校内研担当 仲村智

4月30日(水)に琉大の比嘉俊教授を講師に招き、「学習者理解に視点を置いた授業参観・授業改善」というテーマで職員対象の研修を行いました。南風原中学校が実践している「視点生徒」を通して授業を考える際の理論研究や授業づくりの方法について、今後の自己の授業改善の新たなきっかけとなったことでしょう。我々教師も学び続けることを忘れず日々実践です!!

以下、個を観る研究授業 PDCA サイクルの資料を提供いたします。



「子供を見る目」を鍛える ～学校全体の授業力向上のために～

※石川県教育委員会

「指導改善資料」参照

①P 指導案検討

明確化

①学習指導案の検討会では、**目標を達成した児童生徒の具体的な姿**を明らかにし、**学校全体で共有**することが重要です。そのためには、「学習指導要領解説」をもとに**指導事項を的確に捉える**ことが重要です。また、指導事項に照らし合わせ、評価規準や評価場面、評価方法といった見取りの視点を共通理解することも大切です。そうすることで、授業整理会の協議の深まりにもつながります。



どんな姿が、「目標を達成した姿」と言えるのですか。



～～という姿が見られれば目標達成です。学習指導要領解説の〇〇ページに、～について～と書かれているからです。

②D 研究授業

見取り

②研究授業では、授業者も参観者も、目標の達成に向かう児童生徒の**学びのプロセスを見取る**ことが大切です。そのために、授業者も参加者も「何を」「何から」見取るのかを常に意識しましょう。

「何を」見取るのか

- ・どのように考えているのか
- ・何がきっかけで変容したのか
- ・何に気付いているのか (気付いていないのか)
- ・どこで (何に) つまずいているのか

「何から」見取るのか

- ・子供の表情や学ぶ姿勢
- ・子供のしぐさ (視線、挙手の様子 等)
- ・子供の発言やつぶやき
- ・ノートやワークシートの表現 等



参観者

③C 授業の振り返り

検証

③授業整理会では、**児童生徒の実際の姿**から、目標の達成とその要因について協議することが大切です。また、協議を通して、授業者も参加者も、「子供を見る目」が鍛えられ、授業力の向上にもつながります。



〇〇さんは、グループ学習で自分の考えを変えていました。□□さんの～の考え方の良さに気付いたからだと思います。



～～という姿が見られたので、本時の目標は達成できたと思います。



先生の「～」という発問がきっかけで、〇〇さんの表情が意欲的な表情に変わり、～の叙述に着目して、作者の意図を読み取ろうとしました。



④A 日常の授業

積み重ね

④研究授業・授業整理会を通して得た「子供を見る目」を生かして、日常の授業でも児童生徒の学びを**見取り**、指導や評価に生かしていきましょう。その積み重ねが、**目標達成にこだわった授業改善**につながります。



子供たちの表情に着目してみると、子供たちがどこでつまずいているのかわかるようになりました。

グループ学習の際に、だれがどのような考えを持っているのかを見取ることで、苦手だった全体学習でのコーディネートがうまくできるようになりました。



授業者

①へ

PDCA サイクル

学校全体の授業力向上